

## 編 集 後 記

本支部第十回・第十一回研究発表会で発表された成果を支部の紀要第十・十一合併号で刊行することになった。

第十回発表会 (昭和42年11月19日、岡山大学にて)

1. Explication essentielle de la liberté dans «Manon Lescaut»...  
広島大学修士課程 小住 毅 志
2. Bernanos の univers intérieur における一考察, その romanesque 作品の超自然的  
説明... 広島大学修士課程 真田 光子
3. Musset の戯曲における «fantouche» についての一考察...  
広島大学修士課程 小笠原 洋子
4. A Camus とドストエフスキーの『悪霊』について——ニヒリズムと自由を中心  
として... 広島大学修士課程 辻 昭 臣
5. «Aller»の語源について  
岡山大学助教授 大 高 順 雄
6. 生成文法について

エリザベト音楽大学教授 村 上 清 人

第十一回発表・報告会 (昭和44年1月26日・広島大学教養部にて)

1. “A la Recherche du Temps Perdu” における二つの流れ  
——「生活者」から「芸術家」へ 広島大学修士課程 清 家 浩
  2. 「タイス」に於ける精神的メカニズムと自由の意識  
広島大学修士課程 小 住 毅 志
  3. アンドレ・シェニエにおける模倣と創造  
広島大学修士課程 岩 井 前
  4. Balzac の初期の哲学思想 (II) ——最初の哲学論文 «Dissertation sur l'homme,  
son génie» 広島大学 教授 長 崎 広 次
- 報 告 シャトーブリアン生誕200年記念行事に参加して  
広島大学 教授 佐 藤 弓 葛

以上のうち第十回の村上氏の研究はエリザベト音楽大学紀要に発表済みとなったので、本号には載せられなかった。また岩井氏の分は原稿到着の都合で次の機会に譲り、佐藤氏の報告は昭和44年度春季全国大会で更に詳細になされる予定なので、ここには収録しないことになった。御諒承を得たい。第八号・第九号と二年続けて毎年刊行を実現したが、諸般の都合上隔年出版に逆戻りをしたのは誠に残念である。支部会員諸氏の御協力を得て毎回速かに会誌の刊行を実現したいものである。

なお、毎号のことながら、多大な犠牲を払って出版を引受けて下さった大学印刷に心から御礼を申し上げます。(田中)